



公益社団法人 北海道交通遺児の会

〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目
大通バスセンタービル1号館6F
電話 011 (232) 8688 FAX 011 (232) 8689

令和6年1月発行 50周年記念号

ご挨拶

公益社団法人北海道交通遺児の会
会長 工藤修二



2024年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
まずは、元日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々に心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。被災地域の安全と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、今年は、私たち北海道交通遺児の会が昭和49年に創立以来、満50年を迎えます。

この間、微力ではありますが、交通遺児及びそのご家族に寄り添いながら各種事業を展開し、例えば奨学金については、制度が始まった昭和63年から数えると延べ2,700人を超える交通遺児の方々にお渡しすることができ、また、交歓交流事業においては、これまで、キャンプや果物狩り、年末交流会（クリスマス会）などのほか様々な内容でレクリエーションを実施し、延べ1万1千人を超えるの方々にご参加をいただくなど、交通遺児を激励しつつ、子供たちのそれぞれの夢に向かって、多少なりともその背中を押し続けることができているのではないかと考えています。これもひとえに、企業、団体そして個人の皆様からの温かいご支援によるところであり、これまで支えていただいた多くの方々へ深く感謝を申し上げます。

道内における交通遺児数は、交通安全に携わる多くの方々の熱意ある取組により年々減少しており、私どもが全道域で実態調査を開始した昭和63年当時の1千590人から令和5年調査では187人まで減少しています。しかし、全体の遺児数は減っても、ある日突然に大切な肉親を失った個々の子供たちが精神的にも経済的にもたいへん厳しい環境に置かれていることには変わりはありません。私たちは、こうした子供たちやそのご家族が自信と誇りをもって力強く生き抜いていただけるよう、引き続き支援激励に全力で取り組んで参る所存です。今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、今年も皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和5年度 交通遺児数

令和5年度調査における
道内の交通遺児数は
187名です。



地区別 区分	札幌市	空知地区	石狩地区	後志地区	胆振地区	日高地区	渡島地区	檜山地区	上川地区	留萌地区	宗谷地区	オホーツク地区	十勝地区	釧路地区	根室地区	合計
幼児	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
小学生	6	3	3	1	1	-	2	-	2	-	1	1	2	5	2	31
中学生	12	1	-	3	2	1	4	-	4	-	-	1	5	7	1	41
高校生	13	3	-	3	1	2	6	-	4	-	1	-	7	9	1	50
浪人等	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
短大等	4	1	-	3	1	1	2	-	-	-	1	-	1	4	-	18
大学生	16	7	3	4	-	1	3	-	7	-	1	-	-	1	-	45
合計	55	16	6	15	5	5	17	-	17	-	4	2	15	26	4	187
世帯	38	11	4	8	3	3	9	-	12	-	1	2	9	15	2	117
家族人数	125	33	11	25	11	11	29	-	35	-	5	5	27	45	6	368

令和5年度の主な事業の実施状況をお知らせします

◎育英奨学事業

高校生・大学等生に対する奨学金の支給

下表のとおり高校生21名の方に月額2万円（年額24万円）、大学等生46名の方に月額1万円（年間12万円）を、6月と12月に分けて支給しました。

区分	高校生					大学等生				
	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
新規	7				7	3	1			4
継続		8	6		14	12	9	12	9	42
計	7	8	6		21	15	10	12	9	46

入学祝金の贈呈

中学校新入学生徒5名、高校新入学生7名に1人2万円、大学等新入学生15名に1人10万円、合計27名に贈呈しました。

卒業祝金の贈呈

高等学校を卒業後、進学をせずに就職等をした7名に1人5万円を贈呈しました。

修学旅行支援金の支給

小学生1人1万円を8名、中学生1人2万円を9名、高校生1人3万円7名、合計24名に支給しました。（令和6年1月までの分。最終締切は令和6年2月22日（木）です。最終締切に間に合わない場合はご連絡ください。）

図書カードの贈呈

お子さん168名に、クリスマスカードに添えて1人3千円分の図書カードを贈呈しました。

◎慰霊祭

第48回交通事故物故者慰霊祭を、交通事故撲滅祈願と併せて、道、道警、交通安全関係団体等のご支援ご協力をいただき厳粛に行いました。

実施日
8月22日（火）
会場
札幌斎場
参加者
39名



◎交歓交流事業 レクリエーション

*劇団四季「リトルマーメイド」

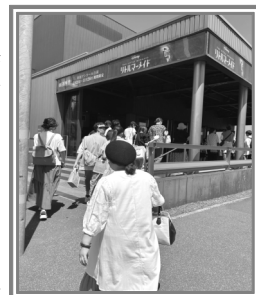
実施日 7月23日（日）
会場 東1丁目劇場施設（旧北海道四季劇場）
参加者 20名

コロナ禍の影響を受けて、千秋楽を迎えられないまま幕を閉じた公演が、3年ぶりに北海道にやってきました。みなさん楽しんで頂けたようです。

～参加者の感想～

「子ども達は初めてのミュージカルで、映画との違いにわくわくしていました。終わった後、楽しかったし、あんなことどうやっているのだろうと興味津々、興奮していました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。」（厚別区 Iさん）

「親子共々ミュージカルを見たことがなく、とても楽しみにしていました。迫力あり、笑いありでとても楽しかったです。遠く、日帰りで大変でしたが、とてもいい思い出になりました。」（釧路市 Oさん）



*交歓交流会12月

実施日 12月2日（土）
参加者 抽選会 89名
クイズ大会 52名

ラインのオープンチャットクイズ大会と抽選会を行いました。今年で3年目になり、毎年期待の声が多くよせられ、過去最多人数での開催となりました。

抽選会賞品を毎年変えてますが、人気賞品は倍率が高くなかなか当たりません！強運の当選者からは喜びの声が届いています。また、当日参加者の特別抽選もあり、抽選に外れても、もう一度チャンスがあるので、「当たったー！」「おめでとう！」と大いに盛り上がりました。

「ゴディバアイスアソート」に当選された方から写真が届きました。「立派な箱入りの美味しそうなアイスが届きました☆」



他にも、ローストチキンやブッシュドノエルが当たった方が写真を寄せてくれました！喜んでいただけただけでなによりです☆彡

奨学生からの寄稿

○高校生

(札幌市 高校1年生)

私の将来の夢は、中学校の時に世話になった先生たちのような教師になることです。中学時代、クラスにうまくなじめず学校を休みがちになった時もありました、それでも私が学校に行けるようになったのは、いつも親身になって話を聞いてくださった先生方の存在があったからです。自今自身の経験を活かし、先生達のような教師になるのが私の目標です。



(札幌市 高校1年生)

中学校をあまり通えなかった僕は、高校で、自分のレベルにあった勉強に必死に取り組みました。部活は、メディア局に入局し、校内の情報を伝えるブログを作成したり、ラジオ放送を行っています。アルバイトもはじめたので、決して楽ではないけれど、たくさんのことを学び、社会経験を積んでいると感じます。



(浦臼町 高校1年生)

入学してから、現在に至るまで、首席を維持していて、今でも、努力を怠ることなく勉強に励んでいます。また、夏休みには小学校の学習会ボランティアに参加し、小学生と交流しました。最近、学校の授業で、ギターやピアノの練習に取り組んでいます。友達と一緒に練習していて、段々弾けるようになってるので、これからも頑張っていきたいと思えます。



(函館市 高校2年生)

部活のサッカーに力を入れています。1年生の時は、ベンチに入ることが難しく、試合出場のチャンスは少なかったですが、2年生になってからは、試合に出る機会が増えました。ジャンパー膝と診断され、ひざの痛みが出ることもありますが、試合に出るたびに反省点が出てくるので、それをもっと改善できるように、さらに続けて出場できるようにと練習に取り組んでいます。



(夕張市 高校3年生)

僕は卒業後就職することに決めて、今年の春休みから気になった企業を見学に行ったり、企業説明会に参加したりしました。そして、面接の練習を毎日やって、先日採用試験を受けてきました。結果はまだわからないので、ドキドキしています。社会人になり、ちゃんと働けるか不安はありますが、希望をもって、皆さんの役に立てるように頑張りたいと思えます。

○大学等生

(余市町 専門学校1年生)

私は将来プロスポーツトレーナーになるために、専門学校に行き、アスレティックトレーナー科に入り、2年後には「ATの資格」を取れるよう、勉強や現場実習を頑張っています。授業内容はとても難しく、付いていくのがとても大変なので、家やバスの中でテキストやプリントを見て勉強しています。後期に入ってから自分がとりたい資格検定を取りに行っています。学生のうちからしっかり勉強の復習や資格検定、現場実習で技術や知識、人間性を身に付け、「ATの資格」を取れるように日々がんばって取り組んでいきます。いつもご支援ありがとうございます。



(札幌市 短期大学2年生)

私は進学してから部活動に力を入れて取り組んできました。私が所属している「よさこい」を通して身体面や精神面でもたくさん成長することができました。他学年や他学校、目上の人と関わる機会が増え、社交性を身に付けることができたと感じます。最近では部活動での遠征に参加し、全体の統括を行いました。大変でしたが、貴重な経験をさせていただきました。今回の遠征に行くことができたのは、交通遺児の奨学金のおかげです。

もう一つ、就職活動にも力を入れて取り組んできました。面接練習をたくさん行い、校内推薦枠で受けることができました。勉強、部活動、就職活動の両立はとても大変でした。ですが、一緒に頑張ってくれる母の存在があったため、私も頑張ることができました。



(札幌市 大学3年生)

大学3年生になり、ゼミ活動の中でボランティア活動がとても多く、地域活性化や障がい者スポーツへの支援活動や地域の小学生の図工コンクールのお手伝いなどを行っています。また、消防士になるために勉強をしたり、部活のゴルフ部も活動しています。アルバイトは、近所の中古車屋の美装などを行っています。これからは、来年6月にある消防士の試験に向け、勉強により一層力を入れて頑張っていこうと思います。

(浦河町 大学4年生)

入学してから今まで、主に学業に力を入れてきました。日々の授業もそうですが、司書、中学校教諭一種免許状(国語)、高等学校教諭一種免許状(国語)を取得できる資格強化の授業にも力を入れてきました。今年は教員採用試験と教育実習があります。教員採用試験は無事に一次を合格し、二次に進むことができました。教育実習はこれからですが、楽しみな反面不安もあります。精一杯頑張ろうと思います。



50年の歩み

○ 1974年（昭和49年）

道内の交通事故死者激増を憂慮し、元札幌市長の高田富與氏が同憂の士に呼びかけ、本会が創立されました。

○ 1975年（昭和50年）

札幌市の協力を得て札幌市役所内に事務局（事務所）を設置し、レクレーションや年末交歓会などの交歓交流事業、交通事故物故者慰霊祭の実施のほか、札幌市内及び石狩管内を対象とした交通遺児実態調査、機関紙の発行を開始しました（以後、毎年度実施しています）。



○ 1976年（昭和51年）

任意団体を法人化し社団法人北海道交通遺児の会を設立しました。

○ 1977年（昭和52年）

事務所を札幌市中央区南1条西10丁目タイムスビル内に移転しました。

○ 1985年（昭和60年）

大学生に対し奨学金の支給を開始しました。

また、北海道中央バス労働組合様のご支援によりミステリーバスツアーが始まり、以後平成26年までの30年間毎年実施され、延べ1,972人が参加しました。



○ 1988年（昭和63年）

事務所を札幌市中央区南3条西11丁目中央区役所分庁舎内に移転しました。

また、交通遺児実態調査の対象地域を全道域に拡大しました（当時の交通遺児数1,590人）。

さらに、奨学金支給を制度化し、大学生への支給を廃止して対象を高校生としました（月額7千円から開始）。



○ 1989（平成元年）

事務所を札幌市中央区南1条東2丁目バスセンタービル2号館内に移転しました。

また、小学校及び中学校の入学者に対し、入学祝金（2万円）の贈呈を開始しました。



○ 1990（平成2年）

奨学金の支給額を月額1万円に引き上げました。

○ 1991年（平成3年）

奨学金の支給額を月額1万2千円に引き上げました。

○ 1992年

（平成4年）

事務所を札幌市中央区北1条西3丁目札幌住友信託ビル内に移転しました。



○ 1999年（平成11年）

事務所を現在の札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館内に移転しました。

○ 2011年（平成23年）

公益社団及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号）に基づき、公益認定を受け公益社団法人となりました。

○ 2012年（平成24年）

小学校及び中学校の修学旅行者に対し、修学旅行支援金（小学生1万円、中学生2万円）の支給を開始しました。

また、中学生以下の交通遺児に対し、12月にクリスマスカードに添えて図書カード（3千円相当）の贈呈を開始しました。



○ 2013年(平成25年)

奨学金の支給額を月額1万5千円に引き上げました。

○ 2014年(平成26年)

入学祝金、修学旅行支援金及び図書カードの贈呈・支給対象を高校生まで拡大しました(高校生の修学旅行支援金は3万円、その他は小学生・中学生と同額)。



○ 2017年(平成29年)

奨学金の支給額を月額2万円に引き上げました。

○ 2019年(令和元年)

入学祝金の贈呈対象者を大学等生まで拡大しました(道内の高等学校を卒業した者に限る。贈呈額は、短大・専門学校生5万円、大学生10万円)。併せて大学等生も図書カードの贈呈対象としました。

○ 2020年(令和2年)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、創立以来毎年実施してきた交通事故物故者慰霊祭の開催を中止しました。同様に、交歓交流事業(レクリエーション)の実施も見送りましたが、コロナ過において、家庭内での家族の団らんや交流を支援するため、交通遺児家庭に対し商品券(1世帯5千円(2子以上1千円を加算))を贈呈しました。



○ 2021年(令和3年度)

それまで、「主として生計を維持していた保護者を失った子又は重度後遺障害のため就労ができない家庭にある子」を支援の対象としてきましたが、主として生計を維持していた者以外の保護者を失った場合又は重度後遺障害のため就労できない場合であっても、交通遺児の精神的苦痛に変わりはなく、さらに近年の共働き世帯の増加等に伴い、家計への影響が大きいケースも考えられることから、「主として生計を維持していた」という条件を撤廃し、支援対象の拡大を図りました。

また、短大・専門学校生に対する入学祝金の贈呈額を大学生と同額の10万円に拡大しました。

○ 2022年(令和4年度)

奨学金の支給対象を大学生、短大生・専門学校生まで拡大しました(大学等生は月額1万円)。

また、高等学校卒業後、進学をせず就職等をする交通遺児に対し、卒業祝金(5万円)の贈呈を開始しました。

○ 2024年(令和6年度)

創立50周年を迎えました。

(歴代の会長)

初代会長は、本会の設立に尽力された元札幌市長の「高田富與」氏が就任し、その後、次の方々が会長として本会の発展に貢献されました。

- ・昭和51年 高田富與氏
元札幌市長
- ・昭和51年～昭和62年 生駒一郎氏
生駒産業(株)代表取締役社長
- ・昭和63年～平成3年 柴藤正吉氏
札幌商工会議所副会頭
- ・平成3年～平成7年 中平正一氏
(社)北海道トラック協会会長
- ・平成7年～平成9年 足利順一氏
(社)北海道トラック協会会長
- ・平成9年～平成18年 富山憲一氏
(社)北海道トラック協会会長
- ・平成18年～平成19年 富山憲一氏
(社)北海道トラック協会名誉会長
- ・平成19年～平成25年 杉本守巧氏
(社)北海道トラック協会会長
- ・平成25年～平成26年 杉本守巧氏
(公社)北海道トラック協会名誉会長
- ・平成26年～平成29年 伊藤昭人氏
(公社)北海道トラック協会会長
- ・平成29年～令和元年 奈良幹男氏
(公社)北海道トラック協会会長
- ・令和元年～令和2年 奈良幹男氏
(公社)北海道トラック協会名誉会長
- ・令和2年～ 工藤修二氏
(公社)北海道トラック協会会長



主 な 事 業 の 実 績

1 育英奨学事業

交通遺児の就学支援等を目的に各種給付事業を実施しています。

【これまでの実績】

- (1) 奨学金の支給 (S63~R5)
 - 支給者数 延べ 2千720人
 - 支給額計 4億1千248万2千730円
- (2) 入学祝金の贈呈 (H1~R5)
 - 贈呈者数 延べ 1千557人
 - 贈呈額計 3千506万円
- (3) 修学旅行支援金の支給 (H24~R5)
 - 支給者数 延べ 413人
 - 支給額計 875万円
- (4) 図書カードの贈呈 (H24~R5)
 - 贈呈者数 延べ 2千254人
 - 贈呈額計 676万2千円相当
- (5) 卒業祝金の贈呈 (R4~R5)
 - 支給者数 11人
 - 支給額計 55万円



2 交歓交流事業

交通遺児の激励と交通遺児家庭相互の交歓交流を図るため、キャンプ、果物狩り、地引網体験、芋掘り、チャリティーバザー、お笑いライブ鑑賞、年末交流会（クリスマス会）など様々な内容でレクリエーションを実施してきました。

また、昭和60年から平成26年までの30年にわたり北海道中央バス労働組合様のご支援によりミステリーバスツアーを毎年実施していました。

さらに令和3年からは、新型コロナウイルス感染予防対策も考慮して年末交流会をオンラインにより実施しており、居住地域に関係なく気軽に参加していただけるなどご家族から好評を得ています。

【これまでの実績】 (S50~R5)

- 実施回数 139回
- 参加人員 延べ 1万1千644人

3 交通事故物故者慰霊祭の実施

交通事故で亡くなられた方の慰霊と交通事故撲滅の願いを込めて、ご遺族のほか、北海道庁、北海道警察その他関係団体、本会役員等の参列により、創立当初から毎年開催しています（R2はコロナで中止）。

【これまでの実績】 (S49~R5)

- 開催回数 48回
- 参加者数 延べ 5千450人

※ 上記のほか、交通遺児やその家族の悩み、疑問を受け付ける窓口を設置し、随時対応しています。これら事業は、本会基本財産の運用益及び本会会員の会費のほか、企業、団体、個人の皆様からの温かいご寄付、北海道新聞社会福祉振興基金からの助成金のみを原資として実施しています。

子供たち一人ひとりが社会の温かい思いやりの心や応援してくれる人がいるということを感じながら、それぞれの夢に向かって成長し、大人になったときに今度は自分たちが手を差し伸べる側になりたいと思っていただけるよう、今後も支援の充実に努めます。

◎交通遺児の会の思い出 ～0Bからの寄稿～

中島（旧姓五十嵐）泉 様（平成3年度卒業）

私の父は、私が1歳半の時に交通事故で亡くなりました。私は父の顔も、声も、ぬくもりも知らずに、母・姉・兄の愛情を受け育ってきました。ですが、小さい頃は車のない生活、休日はほぼ自宅にいて友達と遊んでいた記憶があります。

そんな中、交通遺児の会でイベントに参加し、休日に出かけることが唯一の楽しみのひとつだったことも記憶しています。毎年12月のクリスマス会では、サンタクロース役の方からプレゼントや、たくさんのおいしい食事をいただき、お土産にケーキを持ち帰り、その夜家族でケーキを食べることが楽しみの一つでした。

夏には、キャンプにも連れて行っていただきました。キャンプ場から見る初めての夜の星空が綺麗だったこと、知らない大人の方や同年代の方と話しをしたり、キャンプファイヤーをしたことも記憶に残っています。

毎年、物故者慰霊祭では改めて、交通事故が減っていないことを痛感しながら、亡くなった父を改めて供養し、自分を見つめなおす機会を与えてくださいました。また、綺麗な花やおいしい食事を頂きました。

交通遺児の会主催のいろいろな思い出が、今でもふとした時に思い出す時があります。女親では連れていく場所等にも限界があり、行動範囲も決まってしまう。そんな中で、交通遺児の会で開かれるイベントに参加すること、出かけられることが、楽しみでもあり、心の成長にもつながったように思います。

私も今は高校1年の子供をもつ母親です。昔と時代は大きく変わりましたが、私は交通遺児の会で心豊かな思い出をたくさん作っていただいたように、私の子供にもお金では買えない思い出をこれからもたくさん作っていきたいと思っています。

交通遺児の会設立50周年とのことで、いろいろなイベント設計・実施いただき改めて今は万感の思いを込めて感謝しております。次世代のこれからの子供たちの心の中にもたくさんの思い出を作ってください。



上田 由梨奈 様（平成17年度卒業）

子どもの頃、物心つくかつかないかの頃、私の心に残る特別な思い出があります。それは、ウォルト・ディズニー・スタジオが主催する素晴らしいイベント、「ウォルトディズニーワールドオンアイス」（現在は「ディズニーオンアイス」）に交通遺児の会が招待してくれたことでした。当時、私は3人の兄姉、母親と一緒に生活しており、親が一人で家計を支える中で、旅行に行くことはほとんど叶わないと、幼いながらもなんとなく理解していました。普段の生活に手いっぱい、贅沢な夢や冒険をすることにとっても高いハードルを感じていました。しかしそんな中、交通遺児の会の優れたサポートによって、私たちは夢の舞台に足を運ぶ機会を得たのです。

その日は、家族全員がワクワクしながら月寒グリーンドームへ向かいました。私たちの胸が高鳴り、期待と興奮が一層大きくなる中、イベント会場に足を踏み入れる瞬間、まるで別次元の世界に飛び込んだような感覚が広がりました。アイススケートの上で輝くキャラクターたちが物語を紡ぎ、私たちはただ見入るばかりでした。

私の記憶に鮮烈に残っているのは、ショーの中でチップとデールが仲良く踊る場面です。彼らの愉快的動きに、すっかり見入って笑顔で手拍子をたたき、その瞬間に一体感を感じました。また、高さ5メートルもあると思われる巨大なアースラが登場した事も覚えています。あの瞬間、驚きと興奮が一気に広がりました。その迫力あるパフォーマンスは、私たちを引きつけて離しませんでした。

ミニーマウスの光るペンライトに見入っていたことも忘れられません。色とりどりの光が、暗闇の中でキラキラと輝き、子ども心に幻想的な世界を広げました。その煌めく瞬間は、まさに魔法にかかったような美しさでした。

この作文を通じて兄弟たちと共に過ごしたあの日の思い出がよみがえり、それが私たちの大切な宝物であることを再認識できて嬉しく思います。子どもの頃の家族旅行の思い出は、ただの思い出以上のものであり、それが私の中にしっかりと存在していることを感じます。作文の機会を通じて、家族と共に過ごした幸せな瞬間を再び味わうことができ、そのことに心から感謝しています。

温かいご支援ありがとうございます

次の方々から浄財が寄せられました。令和5年1月1日から令和5年12月31日までの分を報告（順不同）します。
（単位；円）

◎ 寄附金

ご寄付者名(敬称略)	金額	ご寄付者名(敬称略)	金額	ご寄付者名(敬称略)	金額
匿名	12,000	山光運輸(株)	500,000	ワンボックスレンタカー	148,915
宮本剛典	13,000	(有)ミートショップあんぼ	5,000	(株)北海道新聞社	1,350,000
匿名	100,000	アトミクス(株)	30,000	(一社)北海道指定自動車教習所協会	200,000
片田拓己	750,000	マルシン商事	24,000	札幌中古自動車販売協会	300,000
楠原幸一	20,000	三愛自動車工業(株)	499,780	中央バス自動車学校労働組合	10,000
匿名	30,000	(株)エース	1,000,000	(株)中央バス自動車学園	40,470
匿名	29,792,130	MS北海道(株)	122,400	札幌方面遊技事業協同組合	200,000
匿名	270	北海道中央バス労働組合	455,807	北海道コカ・コーラボトリング(株)	63,317
匿名	50,000	(株)三笠精算事務所	57,700	北海道商工会青年部連合会	1,628,651
匿名	30,000	(株)函館新聞社	10,000	札幌地区トラック協会札幌白石支部	64,000
匿名	10,000	(一社)札幌斎場	150,000	J A 共済連北海道役職員一同	141,283
匿名	180,000	(一社)北海道警友会	100,000	札幌清田ライオンズクラブ	76,335
匿名	50,000	幻影会	106,585	札幌アカシヤライオンズクラブ	80,000
匿名	80,000	共通運送(株)	200,000	(株)北海道新聞社苫小牧支社	10,000
近藤健二	100,000	耕友五月会	10,000	(有)山本石油御影北SS	4,014
匿名	10,000	エゾイストジャパン	30,000	えんがる商工会女性部	20,000
匿名	100,000	山本晴夫	100,000	北海道西濃運輸労働組合	350,000
匿名	50,000	紫竹ゆかり	30,000	警察大学校本科49期会	15,000
匿名	1,000,000	島岡久江	30,000	北海道警察初任科第47期	167,137
匿名	20,000	故平谷輝人	25,000	(一社)札幌地区トラック協会	43,000
匿名	10,000	宮井能雅	50,000	北海道郵便通送(株)	300,000
匿名	30,000	島田禮子	300,000	ジェイ・アール北海道バス(株)	
匿名	20,000	匿名	7,960,400	桑園自動車学校	100,000

◎ 募金箱

設置者名(敬称略)	金額	設置者名(敬称略)	金額	設置者名(敬称略)	金額
共同交通(株)	29,739	第一ホテル翠山亭	23,119	(株)京王プラザホテル札幌	9,864
(一財)弘仁会	3,846	平和園(太平店)	15,461	札幌医大事務局(教育研究棟)	3,559
		イオン北海道(株)	1,931,713	札幌医大事務局(防災センター)	23,147

◎ その他の支援

ご寄付者名(敬称略)	寄付の内容
木下サーカス(株)	木下大サーカス札幌公演チケット

会員の異動
〈令和5年・敬称略〉

〈正会員〉
退会
札幌みらい中央青果(株)
柳谷 隆治

〈賛助会員〉
退会
日通札幌運輸(株)

◆◆◆ 事務局より ◆◆◆

- ❖令和6年は当会設立50周年になります。記念式典を予定しておりますので、たくさんのかたに参加して頂けると幸いです。皆様とお会いできることを楽しみにしております。
- ❖本会が実施する事業は、全て贈呈であり、返済の必要がありません。どうぞ遠慮なくご利用ください。
- ❖当会ホームページから、奨学金などの各種申請書が取り出せるようになっておりますのでご活用ください。
- ❖本会へのご意見ご要望がございましたら、遠慮なくお寄せください。



【 事務局 】

電話 011-232-8688 F A X 011-232-8689